

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読 I a	左近 豊
前期・2単位	<登録条件>ヒブル語基礎文法修得者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書ヒブル語本文を読む。テキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特長を把握し、釈義の手続きを習得することを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> エレミヤ書と哀歌を取り上げる。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られた言葉であり、旧約聖書の間人観、世界観、そして歴史観を反映している。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読む。</p>	
<p><履修条件> 原則としてヒブル語文法基礎履修済み</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：エレミヤ書 序 2:1-3 第2回：エレミヤ書 2:4-6 第3回：エレミヤ書 2:7-9 第4回：エレミヤ書 2:10-13 第5回：エレミヤ書 2:14-16 第6回：エレミヤ書 1:17-19 第7回：エレミヤ書 2:17-19 第8回：エレミヤ書 2:20-22 第9回：エレミヤ書 2:23-25 第10回：エレミヤ書 2:26-28 第11回：エレミヤ書 2:29-32 第12回：哀歌 1:12-14 第13回：哀歌 1:15-17 第14回：哀歌 1:18-20 第15回：哀歌 1:21-22</p>	
<p><準備学習等の指示> 各授業で課題となる聖書箇所事前に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト> <i>Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)</i></p>	
<p><参考書> 辞書:F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs eds., <i>Hebrew and English Lexicon of the Old Testament</i>. (BDB)、 L. Koehler and W.Baumgartner, <i>The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament (HALOT)</i>、 文法書:<i>Gesenius' Hebrew Grammar</i>, B.Waltke and M.O'Connor, <i>An Introduction to Biblical Hebrew Syntax</i>, H.Bauer and P.Leander, <i>Historische Grammatik der hebraeischen Sprache</i>. 参考書:ヴェルトヴァイン著『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i>、『左近淑 著作集 III』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebraeischen Alten Testament</i>, S.Mandelkern, <i>Veteris Testamenti concordantiae hebraicae atque chaldaicae</i>, E.Hatch and H.A.Redpath, <i>A Concordance to the Septuagint and the other Greek Versions of the Old Testament</i> (LXX) など</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度と期末レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読Ⅱ a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> ヨブ記のヒブル語本文を読む。</p>	
<p><授業の概要> BHS を用いて、ヨブと友人たちとの第二回論争部分であるヨブ記 15-17 章の詩文を読む。写本や古代語訳も参照する。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法習得者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：ヨブ記 15:1-6 第3回：ヨブ記 15:7-13 第4回：ヨブ記 15:14-19 第5回：ヨブ記 15:20-25 第6回：ヨブ記 15:26-30 第7回：ヨブ記 15:31-35 第8回：ヨブ記 16:1-5 第9回：ヨブ記 16:6-10 第10回：ヨブ記 16:11-17 第11回：ヨブ記 16:18-22 第12回：ヨブ記 17:1-4 第13回：ヨブ記 17:5-10 第14回：ヨブ記 17:11-16 第15回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> あらかじめテキストを読み、きちんと予習して授業に参加すること。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS),</p>	
<p><参考書> 辞書は、F.Brown, S.R.Driver and C.A.Briggs, Hebrew and English Lexicon of the Old Testament .(BDB) BHS の手引きとして、『ヘブライ語聖書への手引き』（ウォンネベルガー 松田訳）などを用いる。また、岩波版旧約聖書『ヨブ記』（並木訳）を参照する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読Ⅱ b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> ヨブ記のヒブル語本文を読む。</p>	
<p><授業の概要> 前期に引き続き BHS を用いて、ヨブ記 18-20 章の詩文を読む。写本や古代語訳も参照する。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法習得者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：ヨブ記 18:1-4 第 3 回：ヨブ記 18:5-10 第 4 回：ヨブ記 18:11-16 第 5 回：ヨブ記 18:17-21 第 6 回：ヨブ記 19:1-5 第 7 回：ヨブ記 19:6-10 第 8 回：ヨブ記 19:11-15 第 9 回：ヨブ記 19:16-20 第 10 回：ヨブ記 19:21-24 第 11 回：ヨブ記 19:25-29 第 12 回：ヨブ記 20:1-5 第 13 回：ヨブ記 20:6-11 第 14 回：ヨブ記 20:12-18 第 15 回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> あらかじめテキストを読み、きちんと予習して授業に参加すること。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)</p>	
<p><参考書> 辞書は、F.Brown, S.R.Driver and C.A.Briggs, Hebrew and English Lexicon of the Old Testament .(BDB) BHS の手引きとして、『ヘブライ語聖書への手引き』（ウォンネベルガー 松田訳）などを用いる。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義 I a	本間 敏雄
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 創世記37章以下のヨセフ物語をヒブル語本文（マソラ本文）において釈義する。</p>	
<p><授業の概要> 創世記37章以下のヨセフ物語を構文及び本文批判、伝承史等釈義的諸方法を検討しつつ釈義する。ヒブル語本文の諸現象に留意し、テキスト理解を深めたい。印刷聖書（BHS）及び写本（L：レニングラード写本）とマソラの基礎知識も学ぶ。後期課程「旧約聖書原典特殊研究 a」と合同。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法修得者</p>	
<p><授業計画> 第1回：創世記37：1－5 ヨセフと兄弟達 第2回：創世記37：6－11 ヨセフの夢 第3回：創世記37：12－17 シケムのヨセフ 第4回：創世記37：18－24 襲われたヨセフ 第5回：創世記37：25－30 兄弟達の計略 第6回：創世記37：31－36 〃 第7回：創世記39：1－3、19－23 エジプトのヨセフ 第8回：創世記40：1－8 役人の夢 第9回：創世記40：9－15 ヨセフの解き明かし 第10回：創世記40：16－23 〃 第11回：創世記41：17－24 ファラオの夢 第12回：創世記41：25－32 ヨセフの解き明かし 第13回：創世記41：33－40 宮廷のヨセフ 第14回：創世記41：41－49 ヨセフの支配 第15回：創世記41：50－57 マナセとエフライム</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本(Codex Leningradensis) 写真版。辞書：Holladay、専門的なものは Gesenius、BDB 或いは HALOT (HALAT)。「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近／本間)(10. 文の構造(構文論)、12 補説：本文の諸現象(補注一覧))。</p>	
<p><参考書> 「旧約聖書の本文研究」(E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳)、「旧約聖書釈義入門」(H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳)。「ヘブライ語聖書への手引き」(R.ウォンネベルガー 松田伊作訳)、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger)。諸文献は順次提示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義 I b	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 創世記45章以下を、ヒブル語本文（マソラ本文）において釈義する。</p>	
<p><授業の概要> 創世記45章以下のヨセフ物語を構文及び本文批判、伝承史等釈義的諸方法を検討しつつ釈義する。写本とマソラ、ヒブル語本文の諸現象に留意し、テキスト理解を深めたい。後期課程「旧約聖書原典特殊研究b」と合同。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法修得者</p>	
<p><授業計画> 第1回：創世記45：1－8 身を明かすヨセフ 第2回：創世記45：9－15 父を招く 第3回：創世記45：16－23 ファラオの応接 第4回：創世記45：24－28 ヤコブの喜び 第5回：創世記46：1－7 ヤコブ、エジプトへ 第6回：創世記46：28－34 ゴシェンでの再会 第7回：創世記47：1－6 ヤコブとファラオの会見 第8回：創世記47：7－12 〃 第9回：創世記47：13－19 ヨセフの政策 第10回：創世記47：20－26 〃 第11回：創世記47：27－31 ヤコブの遺言 第12回：創世記48：1－7 マナセとエフライム 第13回：創世記48：8－14 〃 第14回：創世記48：15－18 ヤコブの祝福 第15回：創世記48：19－22 〃</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本(Codex Leningradensis) 写真版。辞書：Holladay、専門的なのは Gesenius、BDB 或いは HALOT (HALAT)。「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近／本間)(10. 文の構造(構文論)、12 補説：本文の諸現象(補注一覧))。</p>	
<p><参考書> 「旧約聖書の本文研究」(E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳)、「旧約聖書釈義入門」(H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳)。「ヘブライ語聖書への手引き」(R.ウオンネベルガー 松田伊作訳)、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger). 諸文献は順次提示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特講Ⅱ a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 雅歌の解釈に関する重要な英語文献を講読し、雅歌の文学的解釈について学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語を履修していない者も参加できる。雅歌に関心を持ち、また英語文献を読み通す意欲のある者。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：序文 ix-xiii 第3回：pp.1-15 第4回：pp.16-33 第5回：pp.33-53 第6回：pp.54-68 第7回：第1章 pp.69-82 第8回：第2章 pp.83-92 第9回：第3章 pp.93-102 第10回：第4章 pp.103-113 第11回：第5章 pp.114-126 第12回：第6章 pp.127-150 第13回：第7章 pp.151-159 第14回：第8章 pp.160-191 第15回：pp.192-210</p>	
<p><準備学習等の指示> 英文の聖書学の文献を毎回20頁くらい読むため、通読して参加すること。担当者にレポートをしていただく。</p>	
<p><テキスト> Andre LaCocque, Romance She Wrote. A Hermeneutical Essay on Song of Songs, 1998.コピーを用いる。</p>	
<p><参考書> その都度、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回、内容についてディスカッションするので、発表と授業への貢献度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特講Ⅱb	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 並木浩一著『ヨブ記の全体像』と『「ヨブ記」論集成』を読み、ヨブ記をめぐる討論する。演習形式で行う。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語を履修していない旧約専攻外の学生に開かれた授業である。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：1. ヨブ記緒論 第3回：2. 神の弁論は何を意味するか 第4回：3. 対話のドラマトゥルギー 第5回：4. ヨブ記のレトリック 第6回：5. ヨブ記とヤハウイスト 第7回：6. 神と闘争と和解の賜物としてのヨブの霊性 第8回：7. ヨブ記と内村鑑三 第9回：8. ヨブ記と賀川豊彦（以上、『ヨブ記の全体像』） 第10回：9. ヨブ記における否定 第11回：10. 文学としてのヨブ記 第12回：11. 神義論とヨブ記 第13回：12. ヨブ記における相互テキスト性 第14回：13. ヨブ記とユダヤ民族の精神（以上、『「ヨブ記」論集成』） 第15回：並木浩一先生による特別講義</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回担当者に発表していただき、それに基づいて全員で討議する。</p>	
<p><テキスト> 並木浩一著作集Ⅰ『ヨブ記の全体像』、日本キリスト教団出版局、4000円 並木浩一『「ヨブ記」論集成』、教文館、3000円</p>	
<p><参考書> その都度、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への積極性、また学期末の提出レポート（約6000字）によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研 I a	魯 恩碩
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書形成の歴史と聖書解釈の歴史に対する理解を深めるための特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、講師の拙著である『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』を読みながら旧約聖書形成史に関する最近の研究動向を把握した後、アレクサンドリア学派のアレゴリカルな解釈、アンティオキア学派のディポロジカルな解釈、アウグスティヌスやトマス・アキナスなどによる四重の解釈、近代以降の歴史批評学的解釈などの様々な聖書解釈の方法を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 緒論的問題 3. Origen の聖書解釈 4. Diodore の聖書解釈 5. Augustine の聖書解釈 6. Luther と Calvin の聖書解釈 7. Spinoza の聖書解釈 8. Wellhausen の聖書解釈 9. 現代聖書学の聖書解釈 10. Qumran 共同体の敬虔性 11. 旧約聖書における審判思想の歴史的発展過程 12. 紀元前 7 世紀から 6 世紀までのユダヤ共同体における社会経済的変化の過程 13. 紀元前 4 世紀の Yehud の政治状況と五書の正典化の関係 14. 「契約の書」の時代背景 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Johannes Unsok Ro 『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』 (Sheffield Phoenix Press, 2013), 学生各自で購入する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> ディスカッションなどによる授業への貢献が 3 割、プレゼンテーションが 3 割、期末レポート (4,000 字) が 4 割。期末レポートは、最終授業日に提出すること。レポートの採点基準は、論理性、独創性、正確性を重視する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研I b	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究クラスである。博士課程後期課程 旧約聖書神学特殊研究bとの合同授業である。</p>	
<p><授業の概要> 「種入れぬパンの祭り」について、2013年にはテキストの水面に現れた構造を探求したが、この度は伝承史の海底に深く沈んでみたい。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 「種入れぬパンの祭り」のテキスト 2. 出エジプト記23章と34章 3. 申命記16章 4. 出エジプト記12章と13章 5. レビ記23章と民数記28章 6. 歴代誌下8章、30章、35章、エズラ記6章 7. 文献批判のまとめ 8. 伝承史とは何か 9. mattsahの語源 10. 語源へ遡る方法 11. セム語探索 12. ギリシア語訳の問題 13. 「種入れぬパンの祭り」とは本来何であったか 14. テキストの水面に浮かびかかっているもの 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia, ThWAT(TDOT)</p>	
<p><参考書> 参考文献はそのつど指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題発表の内容と、毎回の討論への参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習Ia	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>原則としてab通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書の諸主題、あるいは旧約聖書を読む場合の諸課題を共に学ぶ。ヒブル語を履修していない人、聖書神学（旧約聖書神学）専攻でない人にも開かれた演習である。</p>	
<p><授業の概要> 今回は、「主の名と啓示」と題して、旧約聖書の内容、ものの考え方、言語の特質をさぐる。ヒブル語や七十人訳のギリシア語の知識を前提とはしないが、説明をある程度理解する意志と準備学習は求められる。前期は、十戒にある時間的発想を究明する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 「主の名と啓示」</p> <p>I. ロルフ・レントルフ「古代イスラエルにおける啓示の概念」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「啓示」の用語 2. 「主の栄光」 3. 「わたしは主」 <p>II. 「わたしが主であることを知る」</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 出エジプト記 5. エゼキエル書 6. 第二イザヤ <p>III. 「わたしは主」</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 主の名の起源 8. 「有りて有る者」 9. 主の現臨 <p>IV. 「わたしだ」</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 出エジプト記 11. 第二イザヤ 12. 七十人訳 <p>V. 啓示の歴史</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 啓示にも歴史がある 14. 歴史としての啓示 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> 毎回必要な参考文献を示すが、W. パンネンベルク編著『歴史としての啓示』聖学院大学出版会を出発点とする。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業で割り当てられた課題の発表を含む授業参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習Ib	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>原則としてab通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書の諸主題、あるいは旧約聖書を読む場合の諸課題を共に学ぶ。ヒブル語を履修していない人、聖書神学（旧約聖書神学）専攻でない人にも開かれた演習である。</p>	
<p><授業の概要> 今回は、「主の名と啓示」と題して、旧約聖書の内容、ものの考え方、言語の特質をさぐる。ヒブル語や七十人訳のギリシア語の知識を前提とはしないが、説明をある程度理解する意志と準備学習は求められる。特に後期は問題の聖書全体への広がり进行を考察する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 「主の名と啓示」</p> <p>I. 出エジプト記3:11-15</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「わたしはある」 2. 「わたしはなる」 3. 「わたしだ」 <p>II. 出エジプト記3:11-15</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 「わたしが共にいる」 5. 先祖たちの神 6. ヘブライ人の神 <p>III. 出エジプト記6:2-8</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 全能の神 8. 「わたしの民、あなたたちの神」 9. 「わたしだ」と知る <p>IV. イザヤ書52:4-7</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 「わたしに何の関わりがあるか」 11. 「見よ、ここだ」 12. 福音宣教者の足 <p>V. エゼキエル書36:22-24</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 聖なる名を惜しむ神 14. 神が神であるゆえの救い 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> 毎回必要な参考文献を示す。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業で割り当てられた課題の発表を含む授業参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
アラム語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記 31：47・エレミヤ 10：11・エズラ 4：8-24・5：1-17 など）、アラム語文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。</p> <p>第 2 回：創世記 31：47 を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。</p> <p>第 3 回：エレミヤ 10：11 を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第 4 回：エズラ 4：8-24 の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。</p> <p>第 5 回：エズラ 4：8-24 の講読(2) 動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。</p> <p>第 6 回：エズラ 4：8-24 の講読(3) 動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第 7 回：エズラ 4：8-24 の講読(4) 動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。</p> <p>第 8 回：エズラ 4：8-24 の講読(5) 動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第 9 回：エズラ 4：8-24 の講読(6) 動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第 10 回：エズラ 4：8-24 の講読(7) 二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。</p> <p>第 11 回：エズラ 5：1-17 の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。</p> <p>第 12 回：エズラ 5：1-17 の講読(2) 二根字動詞の Hapel 形を学ぶ</p> <p>第 13 回：エズラ 5：1-17 の講読(3) 二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。</p> <p>第 14 回：エズラ 5：1-17 の講読(4) Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第 15 回：エズラ 5：1-17 の講読(5) Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
アラム語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル書）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル5章の講読に備える。</p> <p>第2回：ダニエル書の講読(1) Pè' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第3回：ダニエル書の講読(2) Pè' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。</p> <p>第4回：ダニエル書の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。</p> <p>第5回：ダニエル書の講読(4) Lāmed' ālep・Lāmed Hê 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第6回：ダニエル書の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第7回：ダニエル書の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。</p> <p>第8回：ダニエル書の講読(7) 代名詞語尾つきの動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第9回：ダニエル書の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。</p> <p>第10回：ダニエル書の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。</p> <p>第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。</p> <p>第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。</p> <p>第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。</p> <p>第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学I	大住 雄一 小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要> 論文を執筆することの意味とプロセスを解説し、テキスト研究ならびに二次文献の検索を行う。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係</p>	
<p><履修条件> 2016年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること</p>	
<p><授業計画> 第1回：導入 論文執筆の意味 第2回：課題の見いだし方 律法関係 第3回：課題の見いだし方 預言者関係 第4回：課題の見いだし方 文学関係 第5回：テキスト翻訳 律法関係 第6回：テキスト翻訳 預言者関係 第7回：テキスト翻訳 文学関係 第8回：テキストの構造解明 律法関係 第9回：テキストの構造解明 預言者関係 第10回：テキストの構造解明 文学関係 第11回：辞書、コンコルダンスの使い方 第12回：二次文献の検索方法 第13回：暫定的な文献表の作成 第14回：二次文献の使い方 第15回：質疑応答</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> ビブリア・ヘブライカほか、論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書> 毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題の発表（50%）、討論への貢献（50%）を総合して評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学II	大住 雄一 (律法・預言者) 小友 聡 (文学)
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程二年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要> 論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。</p>	
<p><履修条件> 本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること</p>	
<p><授業計画> 第1回：導入 論文執筆の手順 第2回：問題設定 律法関係 第3回：問題設定 預言者関係 第4回：問題設定 文学関係 第5回：研究史 律法関係 第6回：研究史 預言者関係 第7回：研究史 文学関係 第8回：主要テーゼ 律法関係 第9回：主要テーゼ 預言者関係 第10回：主要テーゼ 文学関係 第11回：論証過程 律法関係 第12回：論証過程 預言者関係 第13回：論証過程 文学関係 第14回：結論 第15回：最終的な質疑応答</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書> 毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末には暫定的に可否のみ通知するが、最終的に提出論文の成績が本演習の成績となる。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特講 I a	中野 実
前期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書学、新約聖書神学における重要研究課題について学び、その理解を深める事がクラスの目標。今回は、正典成立史、および正典的聖書解釈について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 前期は、新約聖書正典の成立史、正典化プロセスについて歴史的な視点から学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 通年で履修するのが原則であるが、そうでない場合は、事前に担当者と相談すること。</p>	
<p><授業計画> ① オリエンテーション ② 導入：用語の説明、課題、問題の所在について ③ 旧約聖書正典とは？ ④ ヘブライ語（旧約）聖書とギリシャ語訳（旧約）聖書（七十人訳） ⑤ キリスト教聖典としての旧約聖書 ⑥ 「四福音書」の成立 ⑦ 「パウロ書簡集」の成立 ⑧ 「ノミナ・サクラ」（Nomina Sacra）とコーデックス ⑨ 信仰の規範（regula fidei） ⑩ いわゆる「異端」と正典成立：マルキオン ⑪ いわゆる「異端」と正典成立：グノーシス主義 ⑫ 新約正典の核と周辺 ⑬ 二つの契約書（旧約と新約）から成るキリスト教正典の重要性 ⑭ 4世紀における正典化 ⑮ まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 指示された課題についてコツコツ丁寧に取り組む事。</p>	
<p><テキスト> H・Y・ギャンブル『新約聖書正典：その生成と意味』（教文館）1988年。</p>	
<p><参考書> クラスで、必要に応じて指示する事とする。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの積極的参加（出席、発表、質問、コメントなど）を求める。成績は、出席（三分の二に達しない場合は原則として評価の対象にしない）、分担発表、参加度および期末レポート（4000字程度）によって総合的に評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特講 I b	中野 実
後期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>新約聖書学、新約聖書神学における重要研究課題について学び、その理解を深めることがクラスの目標。今回は、正典成立史、および正典的聖書解釈について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>後期は、現在の聖書学における正典をめぐる議論、とくに正典批評、正典的アプローチについて学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>通年で履修するのが原則。そうでない場合は、事前に担当者と相談すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 導入：批評学誕生以前の状況 ② 導入：歴史批評学の登場と課題 ③ 正典批評、正典的アプローチの必要性 ④ ジェームス A. サンダース ⑤ ブリヴァード、チャイルズ ⑥ ブラーテン、ジェンソン『聖書を取り戻す』（教文館）を読む ⑦ ジェームス バー『聖なる書物』（教文館）を読む ⑧ 海外での議論と日本での議論 ⑨ 渡辺善太 『聖書正典論1』（ヨベル）を読む ⑩ 渡辺善太『聖書正典論2』（ヨベル）を読む ⑪ 田川建三『書物としての新約聖書』（勁草書店）を読む ⑫ 関西学院大学キリスト教と文化研究センター『聖書の解釈と正典』（キリスト新聞社）を読む ⑬ その他の文献を読む ⑭ 以上の学びのまとめ：問題の所在と解決の糸口 ⑮ クラス全体のまとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>前期の項目を参照</p>	
<p><テキスト></p> <p>渡辺善太『聖書論 聖書正典論1』および『同2』渡辺善太著作選3-4、ヨベル、2012-13年。 C・E・ブラーテン、R・W・ジェンソン『聖書を取り戻す』芳賀力訳、教文館、1998年。</p>	
<p><参考書></p> <p>必要に応じてクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>出席、分担発表、参加度と、期末レポート（4000字程度）によって総合的に評価する。ただし、出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象としない。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I a	遠藤 勝信
前期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの福音書6後半～7章(論争)の原典釈義。研究史、釈義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>はじめに、近年のヨハネ福音書研究の動向(研究史、方法論)を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第02回 ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。</p> <p>第03回 テキストの文学批評の実際。</p> <p>第04回 テキストと歴史批評の実際。</p> <p>II. 演習(参加者による釈義の発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 ヨハネ6:41～51(いのちのパンーその1)の原典釈義</p> <p>第06回 ヨハネ6:52～59(いのちのパンーその2)の原典釈義</p> <p>第07回 ヨハネ6:60～71(いのちのこぼ)の原典釈義</p> <p>第08回 ヨハネ7:01～09(イエスの時)の原典釈義</p> <p>第09回 ヨハネ7:10～18(イエスのこぼ)の原典釈義</p> <p>第10回 ヨハネ7:19～24(正しいさばき)の原典釈義</p> <p>第11回 ヨハネ7:25～30(キリストはどこから)の原典釈義</p> <p>第12回 ヨハネ7:31～36(キリストはどこへ)の原典釈義</p> <p>第13回 ヨハネ7:37～44(イエスの招き)の原典釈義</p> <p>第14回 ヨハネ7:45～53(サンヘドリンでの会議)の原典釈義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年</p> <p>R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年</p> <p>R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年</p> <p>C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i>, 2003.</p> <p>M. Endo, <i>Creation and Christology - A Study on the Johannine Prologue</i> (WUNT), 2002. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての釈義ペーパー[6,000～8,000文字])。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I b	遠藤 勝信
後期・2単位	<登録条件>原則として通年 (a, b) で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの黙示録9～12章の原典釈義。研究史、釈義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>近年の黙示録研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力（ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい）を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。</p> <p>第02回 黙示録を読む前に（その1）：黙示録の周辺、背景理解。</p> <p>第03回 黙示録を読む前に（その2）：構造と構成、神学、他。</p> <p>第04回 黙示録1～5章までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。</p> <p>II. 演習（参加者による発表とディスカッション）を中心に</p> <p>第05回 黙示録09：01～06（第五のラッパーその1）の原典釈義</p> <p>第06回 黙示録09：07～12（第五のラッパーその2）の原典釈義</p> <p>第07回 黙示録09：13～16（第六のラッパーその1）の原典釈義</p> <p>第08回 黙示録09：17～21（第六のラッパーその2）の原典釈義</p> <p>第09回 黙示録10：01～07（力強い天使の幻）の原典釈義</p> <p>第10回 黙示録10：08～11（小さな巻物の幻）の原典釈義</p> <p>第11回 黙示録11：01～06（二人の証人による預言）の原典釈義</p> <p>第12回 黙示録11：07～13（二人の証人の死と復活）の原典釈義</p> <p>第13回 黙示録11：14～19（第七のラッパ）の原典釈義</p> <p>第14回 黙示録12：01～06（巨大なしるし）の原典釈義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (27th or 28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>佐竹明著『ヨハネの黙示録』（上・中巻）2009年</p> <p>R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年</p> <p>R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i>, 1993.</p> <p>G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999.</p> <p>D. Aune, <i>Revelation 6-16</i> (WBC), 1997.</p> <p>S. Smalley, <i>The Revelation of John</i> (IVP), 2005. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業における発表と期末試験（指定されたテキストの釈義ペーパー[6,000～8,000文字]）。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学 I	中野 実
後期・2単位	<登録条件>新約神学で修論を書く予定の学生
<p><授業の到達目標及びテーマ>来年度に修士論文を提出する予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習。テーマの選定、論文を書くための技術を身につける事を目的とする。</p>	
<p><授業の概要>論文を書くとはどういう事を学び、その課題に取り組む準備をするためのクラス。毎回学生の発表などを中心にすすめていく。全体としては二人の教員が共に責任を負うが、それぞれが担当学生との個別指導を織り交ぜながら行うこともある。</p>	
<p><履修条件>2016年9月に修論を提出予定の学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 論文を書くとは？ ③ それぞれの課題、問題探し ④ その課題、問題に関連するテキスト探し ⑤ 課題テキストについて深く学ぶ ⑥ テーマの選定、見直し、決定 ⑦ 研究のための方法および道具について ⑧ 資料、先行研究さがし ⑨ 先行研究の学び 参考文献表の作成 ⑩ 先行研究の学びとそこからの展開 ⑪ 問題設定、テーゼの発見へ向かって ⑫ 問題設定、テーゼの吟味 ⑬ 題名、目次作成へ向かって ⑭ 議論の組み立てへ向かって ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示>論文はモノローグではないので、教師、学生との対話を大切にすること。</p>	
<p><テキスト>担当者が必要に応じて、指示する。</p>	
<p><参考書>担当者が必要に応じて、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの出席、課題への積極的参加によって、総合的に評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	中野 実 焼山満里子
前期・2単位	<登録条件>新約神学で修論を書く予定の学生
<p><授業の到達目標及びテーマ>今年度前期末に修士論文を提出予定の大学院二年生で、新約聖書神学専攻の学生のための演習。具体的にそれぞれの修士論文の執筆を助けるような学びをしていく。</p>	
<p><授業の概要>論文の準備段階において、それぞれが研究発表をし、担当者、参加学生の質問、意見などを聞きながら、論文を仕上げていくためのクラス。</p>	
<p><履修条件>2015年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出する予定の学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション 論文執筆の手順などについて ② 問題設定の点検 ③ 資料の点検 ④ 題名、目次、議論の枠組みを整える。 ⑤ より明確な問題設定 ⑥ 序論の執筆 ⑦ 研究史 発表 ⑧ 研究史 点検 ⑨ 論文のテーゼ 発表 ⑩ 論文のテーゼ 点検 ⑪ 議論の組み立て 発表 ⑫ 議論の組み立て 点検 ⑬ 結論 ⑭ 論文のフォーマットの整理：註、文献表など ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示>クラスで指示する。</p>	
<p><テキスト>必要に応じて、クラスで指示する。</p>	
<p><参考書>クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの出席、クラスでの課題への積極的参加などによって、総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講 I a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 摂理に関する教義学的な考察を深めて、歴史の意味や歴史における神の支配を探究する。</p>	
<p><授業の概要> 摂理に関する 20 世紀の神学者たちの議論を探究し、同一の視点から「教会と国家」や Zwei –Reichen-Lehre についても検討する。</p>	
<p><履修条件> 関心を持って授業に参加し、この問題をめぐって自分の問題を見出すこと。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、摂理論について 2、バタフィールドによる歴史家としての摂理論の評価 3、カール・バルトの摂理論 4、そのキリスト論的性格 5、摂理と歴史の問題 6、三位一体論的摂理論 7、摂理論の文脈としての救済史 8、アルトハウスの摂理論 9、パネンベルクの摂理論 10、教会史と人類史における摂理（神の統治） 11、摂理論の総括 12、摂理論と二世界統治説 13、エルンスト・ヴォルフの場合 14、ペーター・ブルンナーの場合 15、全体のまとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> H. Butterfield, Christianity and History の他、その都度指示する。</p>	
<p><参考書> 『神学』74号（世界史と救済史）、バルト『創造論』3/1など。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによる。レポート（4,000～5,000字）は神学的な水準の高い文献を用いながら論文の形式を踏んで書くこと。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講 I b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 歴史の文脈におけるキリスト教の弁証を試みる。</p>	
<p><授業の概要> 歴史の恐怖や歴史の意味、目的、担い手などの問題を扱い、その文脈におけるキリスト教の真理性の弁証を行う。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、歴史的経験と歴史の意味 2、「歴史」の語義 3、歴史の恐怖と非歴史的逃避の困難 4、ミルチア・エリアーデの指摘 5、マックス・ヴェーバーの指摘 6、カール・レーヴィットの指摘 7、コスモスタイプと歴史タイプ（ジェームス・ルーサー・アダムス） 8、「歴史的宗教」の意味 9、歴史的宗教の根拠としての歴史的啓示 10、「歴史神学」の復権、歴史哲学は歴史神学である 11、救済史と世界史 12、歴史とメシアニズム 13、歴史と世界審判 14、歴史の終りと完成 15、総括 	
<p><準備学習等の指示> 授業の中で、自分の問題意識を明確にする努力、それを文献と取り組みながら探究していくこと。</p>	
<p><テキスト> エリアーデ『永遠回帰の神話』など、その都度指示する。</p>	
<p><参考書> レーヴィット『救済史と世界史』など、その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによる。レポート（4,000～5,000字）はかならず何らかの文献を扱いながら論じること。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習 I a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新しくナラティヴ神学のアプローチを用いたキリスト論と救済論の試みを徹底的に分析する。前期はテキストの上巻をもとに討論する。ナラティヴ神学的な救済論について理解することが求められる。</p>	
<p><授業の概要> 担当者を決め、順番に内容をもと要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画> 第1回 主題と探求方法についてオリエンテーションを行い、分担を決める。 第2回 上巻 23 - 69頁の内容を検討する。 第3回 上巻 70 - 113頁の内容を検討する。 第4回 上巻114 - 159頁の内容を検討する。 第5回 上巻160 - 207頁の内容を検討する。 第6回 上巻208 - 247頁の内容を検討する。 第7回 上巻248 - 295頁の内容を検討する。 第8回 上巻296 - 343頁の内容を検討する。 第9回 上巻344 - 391頁の内容を検討する。 第10回 上巻392 - 437頁の内容を検討する。 第11回 上巻438 - 485頁の内容を検討する。 第12回 上巻486 - 529頁の内容を検討する。 第13回 上巻530 - 574頁の内容を検討する。 第14回 上巻575 - 611頁の内容を検討する。 第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> ベルナル・セズプーエ『イエス・キリスト 唯一の仲介者』上巻（サンパウロ）を各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習 I b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新しくナラティヴ神学のアプローチを用いたキリスト論と救済論の試みを徹底的に分析する。後期はテキストの下巻をもとに討論する。ナラティヴ神学的な救済論についてさらに新たな可能性を模索する。</p>	
<p><授業の概要> 担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 下巻 22 - 58頁の内容を検討する。</p> <p>第2回 下巻 59 - 94頁の内容を検討する。</p> <p>第3回 下巻 95 - 130頁の内容を検討する。</p> <p>第4回 下巻131 - 166頁の内容を検討する。</p> <p>第5回 下巻167 - 202頁の内容を検討する。</p> <p>第6回 下巻203 - 237頁の内容を検討する。</p> <p>第7回 下巻238 - 272頁の内容を検討する。</p> <p>第8回 下巻273 - 308頁の内容を検討する。</p> <p>第9回 下巻309 - 345頁の内容を検討する。</p> <p>第10回 下巻346 - 379頁の内容を検討する。</p> <p>第11回 下巻380 - 413頁の内容を検討する。</p> <p>第12回 下巻414 - 447頁の内容を検討する。</p> <p>第13回 下巻448 - 482頁の内容を検討する。</p> <p>第14回 下巻483 - 515頁の内容を検討する。</p> <p>第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> ベルナル・セズブーエ『イエス・キリスト 唯一の仲介者』下巻（サンパウロ）を各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱ a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>組織神学演習Ⅱb と通年で履修（登録）することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>組織神学関係の重要著作の精読を通して、対象となる思想家の神学思想の世界を理解し、さらには、それを手がかりにして、神学的思考能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>二〇世紀最大の神学者の一人、カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読を通して、その思想の内容と特色を理解する。今回は創造論中の摂理論（第48節と第49節）。</p>	
<p><履修条件></p> <p>（なし）</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション、およびバルトの思想の概要・特徴の紹介</p> <p>第2回 48節の一：テキスト3～24頁</p> <p>第3回 48節の二（その1）：テキスト25～34頁</p> <p>第4回 同（その2）：テキスト34～50頁</p> <p>第5回 同（その3）：テキスト50～64頁</p> <p>第6回 48節の三（その1）：テキスト65～86頁</p> <p>第7回 同（その2）：テキスト86～109頁</p> <p>第8回 49節の一（その1）：テキスト111～128頁</p> <p>第9回 同（その2）：テキスト128～149頁</p> <p>第10回 同（その3）：テキスト150～173頁</p> <p>第11回 49節の二（その1）：テキスト174～181頁</p> <p>第12回 同（その2）：テキスト182～205頁</p> <p>第13回 同（その3）：テキスト205～229頁</p> <p>第14回 同（その4）：テキスト229～249頁</p> <p>第15回 同（その5）：テキスト250～264頁</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>必ず事前にテキストに目を通して、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅲ／1——創造者とその被造物〈上〉』、吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>発表と授業への参加度、期末のレポートによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱb	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>組織神学演習Ⅱaと通年で履修（登録）することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学関係の重要著作の精読を通して、対象となる思想家の神学思想の世界を理解し、さらには、それを手がかりにして、神学的思考能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 二〇世紀最大の神学者の一人、カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読を通して、その思想の内容と特色を理解する。今回は創造論中の摂理論。</p>	
<p><履修条件> （なし）</p>	
<p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 49節の二（その6）：テキスト264～277頁 第2回 同（その7）：テキスト277～293頁 第3回 49節の三（その1）：テキスト294～312頁 第4回 同（その2）：テキスト312～333頁 第5回 同（その3）：テキスト333～354頁 第6回 同（その4）：テキスト354～376頁 第7回 同（その5）：テキスト376～396頁 第8回 同（その6）：テキスト396～412頁 第9回 同（その7）：テキスト412～426頁 第10回 同（その8）：テキスト426～450頁 第11回 49節の四（その1）：テキスト451～464頁 第12回 同（その2）：テキスト465～478頁 第13回 同（その3）：テキスト478～500頁 第14回 同（その4）：テキスト501～520頁 第15回 同（その5）：テキスト520～544頁 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストに目を通して、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅲ／1——創造者とその被造物〈上〉』、吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度、期末のレポートによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
信条学	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 専攻に関係なく登録可。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って、信条の神学を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 最初は古代教会の基本信条を取り上げ、次いで宗教改革期の代表的な信条を顧みる。なお授業の後半でロールスのテキストの各項目を一つずつ読み、実際に信条本文に触れながら、その神学的意味を考える。</p>	
<p><履修条件> 大学院博士課程前期・後期に在籍している者は誰でも履修できる。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：信条・信仰告白とは何かを押さえた上で、使徒信条を学ぶ。</p> <p>第2回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「啓示、神の言葉、伝統」の項目を読む。</p> <p>第3回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「神の本性と三位一体論」の項目を読む。</p> <p>第4回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスのテキスト「創造と摂理」の項目を読む。</p> <p>第5回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスのテキスト「人間と罪」の項目を読む。</p> <p>第6回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「恵みの契約と和解」の項目を読む。</p> <p>第7回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。</p> <p>第8回：フランス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「義認と信仰」の項目を読む。</p> <p>第9回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖化と悔改め」の項目を読む。</p> <p>第10回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「選びと棄却」の項目を読む。</p> <p>第11回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「教会とそのしるし」の項目を読む。</p> <p>第12回：ドルト信仰規準を学ぶ。またロールスのテキスト「御言葉と聖礼典」の項目を読む。</p> <p>第13回：ウェストミンスター信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「神の言葉の二様態」の項目を読む。</p> <p>第14回：バルメン宣言を学ぶ。またロールスのテキスト「洗礼」の項目を読む。</p> <p>第15回：日本基督教団信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖餐」の項目を読む。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってその時の信条テキストに目を通しておくことよい。教室で渡す資料をよく整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 『信条集 前後篇』新教出版社、1994年。各自購入すること。またJ・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、2009年。研究室にて割引価格で頒布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での発表、レポートを総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学 I	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻で組織神学もしくは実践神学で2016年度に修士論文提出を希望する者。
<授業の到達目標及びテーマ> 修士論文を執筆するための準備をする。	
<授業の概要> 学術論文を執筆するためのガイダンスを行いながら、各自のテーマの設定、問題意識の明確化、主要文献の確定、二次資料の収集、文献の読解とその報告を順次行う。	
<履修条件> 狭義の組織神学もしくは実践神学の分野で、2016年度に修士論文を提出しようとする者。	
<授業計画> 第1回：組織神学の修士論文を執筆するためのガイダンスを行う。 第2回：修士論文計画書に基づく関心と問題意識の提示（1） 第3回：修士論文計画書に基づく関心と問題意識の提示（2） 第4回：修士論文計画書に基づく関心と問題意識の提示（3） 第5回：主要文献および二次資料の確定と収集（1） 第6回：主要文献および二次資料の確定と収集（2） 第7回：主要文献および二次資料の確定と収集（3） 第8回：基本文献の読書レポート・中間報告（A1） 第9回：基本文献の読書レポート・中間報告（A2） 第10回：基本文献の読書レポート・中間報告（A3） 第11回：基本文献の読書レポート・中間報告（B1） 第12回：基本文献の読書レポート・中間報告（B2） 第13回：基本文献の読書レポート・中間報告（B2） 第14回：これまでの見直しと今後の見直し（1） 第15回：これまでの見直しと今後の見直し（2）	
<準備学習等の指示> 図書館書庫に入って、文献を渉猟し、また先行研究（修士論文）をよく参考にすること。	
<テキスト> 特になし	
<参考書> 特になし	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表内容および授業への参加の度合いを評価する。	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻で組織神学もしくは実践神学で2015年度に修士論文提出を希望する者。
<授業の到達目標及びテーマ> 修士論文を執筆し、期日までに完成させる。	
<授業の概要> 論文の構成を勘案して目次を作成しながら、順番に進捗状況を報告してもらい、問題点を適宜指摘し、必要なアドバイスをを行い、討論する。	
<履修条件> 狭義の組織神学もしくは実践神学の分野で、2015年度に修士論文を提出しようとする者。	
<授業計画> 第1回：進捗状況と今後の見通し（1） 第2回：進捗状況と今後の見通し（2） 第3回：進捗状況と今後の見通し（3） 第4回：A段階・中間発表（1） 第5回：A段階・中間発表（2） 第6回：A段階・中間発表（3） 第7回：B段階・中間発表（1） 第8回：B段階・中間発表（2） 第9回：B段階・中間発表（3） 第10回：C段階・中間発表（1） 第11回：C段階・中間発表（2） 第12回：C段階・中間発表（3） 第13回：D段階・最終発表（1） 第14回：D段階・最終発表（2） 第15回：D段階・最終発表（3）	
<準備学習等の指示> 指導教授の指示をよく仰ぐこと。	
<テキスト> 特になし	
<参考書> 特になし	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表内容および授業への参加の度合いを評価する。論文の提出をもって終了する。	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コースの紹介。履修者との導入討議。 第2回：発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名） 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名） 第4回：資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書） 第5回：資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン） 第6回：資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など） 第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第13回：資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J. ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革―長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他） 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E. マクグラス『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書> 授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰め25枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務ー中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コース紹介。履修者との導入討議。 第2回：発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名） 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回：資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回：資料研究（二） 同上 2（トマス・アクイナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回：資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など） 第12回：資料研究（九） プューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第13回：資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革ー長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他） 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務ー教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E.マクグラース『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書> 授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自教会と職務のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。そして現代神学と実践の立場から教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰め25枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講Ⅱ a	藤本 満
前期・2単位	<登録条件> 通年の履修が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> ウエスレーの生涯、メソジスト運動の概要を理解する。</p>	
<p><授業の概要> ウエスレーに流れ込んだ思想的・信仰的背景を学び、信仰復興運動を指導し、やがてメソジスト教会、それと分岐するホーリネス運動、日本のメソジスト教会の歴史、現代のメソジスト教会の関心事に注目する。</p>	
<p><履修条件> (なし)</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス宗教改革の特色 2. 17世紀アングリカンモラリズムとピューリタニズム 3. ドイツ敬虔主義と啓蒙主義 4. オックスフォードメソジスト 5. ジョージア宣教と挫折 6. アルダスゲイト体験の意義 7. 野外説教とメソジスト運動 8. 信仰復興運動 その1 英米のリバイバルの特質 9. 信仰復興運動 その2 賛美と霊性 10. 「全き聖化」のリバイバル 11. メソジスト伝道者像 12. カリスマ指導者の死 13. 教会化と19世紀ホーリネス運動 14. 日本メソジスト教会 15. 世界のメソジストの動向 	
<p><準備学習等の指示> 指定された資料を読む</p>	
<p><テキスト> ウィリアム・エイブラハム『はじめてのウエスレー』教文館（書店で購入可能）</p>	
<p><参考書> 藤本満『ウエスレーの神学』（絶版、中古入手をできるだけ講師が手配）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業における討論への積極的参加 2. ウエスレーの生涯における出来事の一つ取り上げ、彼の生涯とメソジストへの意義を論じる。 (A4用紙、40字×30行×3枚程度) 	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講Ⅱ b	藤本 満
後期・2単位	<登録条件> 通年の履修が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> ウエスレーの神学、その独自性、時代性、普遍性を考える。</p>	
<p><授業の概要> 一次資料を用いながら、ウエスレー神学に特色ある項目を学び、宗教改革者・啓蒙主義・東方教父などと比較研究を試みることで、ウエスレー神学の公同性と独自性を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> (なし)</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行の恵み（人間論） 2. 信仰義認 3. 救いの確証 4. 選びの教理をめぐっての論争 5. 聖化その1 論争 6. 聖化その2 心と生活 7. キリスト者の完全 8. 最後の義認 9. 教会論 10. サクラメント 11. ウエスレーとルター 12. ウエスレーとカルヴァン 13. ウエスレーと啓蒙主義 14. ウエスレーと東方教会 15. ウエスレー解釈をめぐって 	
<p><準備学習等の指示> 指定された資料を読む</p>	
<p><テキスト> ウエスレーの著作集（一次資料を随時指定）</p>	
<p><参考書> 藤本満『ウエスレーの神学』（絶版、中古入手をできるだけ講師が手配） 『ウエスレー説教53』3巻（インマヌエル出版事業部）、あるいは『ウエスレー著作選集』上・中・下（新教出版、絶版）／53の説教すべてを用いることはない。コピーも可</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業における討論への積極的参加 2. ウエスレー神学の一項目を取り上げて、論じる。（A4用紙、40字×30行×4枚程度） 	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学 I	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 修士論文作成のための訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を確認した上で、修士論文の作成指導を行う。</p>	
<p><授業の概要> 歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねる。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一次史料の読み方：史料の読解 2 一次史料の分析 3 二次史料の読み方：歴史神学の学術論文の読解 4 二次史料の分析 5 論文の構想 6 論文の表現方法 7 参考文献と注 8 修士論文の中間発表：主題の提示 9 修士論文の中間発表：全体の構成 10 修士論文の中間発表：主題の展開 11 修士論文の中間発表：校正と注 12 歴史神学論文の特色 13 修士論文をめぐる討議：史料の読解と扱い 14 修士論文をめぐる討議：構成と表現 15 総括とまとめ 	
<p><準備学習等の指示> N. Cantor, How to Study History を復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 特に定めない。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献、発表、小論文</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>修士論文作成のための基礎知識の習得と訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を身につけることを目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねるとともに、研究を深める。Cantor, How to Study History を読みながら、歴史神学の論文作成の方法を学ぶ。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>I 歴史神学の論文を書くための基礎作業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史神学とは テキスト発表① A Matter of Definition 2 一次史料と二次史料 テキスト発表② The Materials of History 3 一次史料を読む テキスト発表③ How to Use Primary Sources i 4 一次史料を読む テキスト発表④ How to Use Primary Sources ii 5 二次史料を読む テキスト発表⑤ How to Read Secondary Sources i 6 二次史料を読む テキスト発表⑥ How to Read Secondary Sources ii 7 歴史神学論文を読む テキスト発表⑦ A Practical Lesson in How to Read a History Book i 8 歴史神学論文を読む テキスト発表⑧ A Practical Lesson in How to Read a History Book ii <p>II 修士論文作成の準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 作成の注意と準備 10 論文の計画と執筆、注のつけ方 11 論文計画発表① 12 論文計画発表② 13 論文計画発表③ 14 ディカッション 15 まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>学部演習のテキストを読みなおして、復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Norman Cantor, How to Study History 関川が準備する。</p>	
<p><参考書></p> <p>その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスでの貢献、発表、小論文</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特講 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>教育を必要とする対象は乳幼児から高齢者までの全年齢層であるが、中でも人格形成に多大な影響を与えるのは幼少期であろう。幼少の子どもは次世代を担う大切な存在でもある。そこで、キリスト教教育学的な児童観を概観し、その上で児童の宗教教育の今日的意義と可能性を探る。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>第一に、旧・新約聖書における児童観、教会史上の児童観を、養育・教育を担う場としての家庭や教会との関連で概観する。その上で、脱宗教化する現代精神において、子どもが自己形成の過程として宗教を自ら問う権利について、F.シュヴァイツァーの書物を通して考えを深めていく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 2. 旧約聖書における児童観 3. 新約聖書における児童観 4. 新約聖書における家庭訓の意義 5. 古カトリック時代の児童観 6. 中世カトリック時代の児童観 7. 宗教改革時代の児童観 8. 近代の児童理解と宗教 9. 現代の児童理解と宗教 10. 子どもの権利としての宗教的問い—F.シュヴァイツァーとの対話— 11. 子どもは宗教を必要としているか 12. 大人を悩ませるもの 13. 子どもと共に生き、経験する 14. 聖書の物語—子どもと聖書を読み、祈る 15. こどもは教会を必要としている 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>次の講義または学生発表のテーマや箇所について、他の受講者も事前に関連諸資料の該当箇所をよく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>授業の前半は講義中心に進めるが、学生発表も含めて、関連する資料・参考書をその都度指示し、あるいはプリント配布する。</p> <p>授業の後半は、F.シュヴァイツァー著、吉澤柳子訳、『子どもとの宗教対話』—こどもの権利の視点から—、教文館、2008年、を用いる。</p>	
<p><参考書></p> <p>J・H・ウェスターホフ著、奥田・山内・油木訳、『こどもの信仰と教会』、1981年、新教出版社 ハンス＝リューディ・ウェーバー著、梶原寿訳、『イエスと子どもたち』、1980年、新教出版社 ドイツ・ルター派教会発行の『福音主義(=プロテスタント)成人信仰問答書 - 信仰講座読本 - 』、「親と子」(357～378頁)、(Evangelischer Erwachsenenkatechismus - Kursbuch des Glaubens - , Im Auftrag der Katechismuskommission der Vereinigten Evangelisch-Lutherischen Kirche Deutschlands, hrsg. von Hartmut Jetter, Horst Echternach, Horst Reller und Manfred Kießig, 1975, 1989(5., neu bearbeitete und ergänzte Auflage), Güterslohr. , “Eltern und Kinder”, S.357-371.</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業数の2/3以上の出席を前提として、各自の発表と毎回の授業参加度を評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特講 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>サクラメント（洗礼と聖餐）を巡る教育的展開を歴史的、宗教教育学的に考察することによって、サクラメント Praxis に役立てる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>受洗準備教育と受洗後教育、聖餐における教示的次元、サクラメントと説教との関係、カテキズム教育、水とパンと葡萄酒に関する P.ビールの象徴教授法、洗礼とアイデンティティー形成論、などを歴史的、宗教教育学的に考察する。講義と学生発表によって進める。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 2. アウグスティヌスによる受洗志願者教育 3. アウグスティヌスによる教育的説教論 4. ニュッサのグレゴリオスによる洗礼と教会教育（1）－G.S.Mikoski の論究を手がかりにして－ 5. ニュッサのグレゴリオスによる洗礼と教会教育（2） 6. 宗教改革者ルターの洗礼論における教示的次元 7. 宗教改革者ルターの聖餐論における教示的次元 8. 宗教改革者カルヴァンにおける洗礼を巡る教育 9. 宗教改革者カルヴァンによるカテキズムと教会形成 10. 聖餐式における<パン>の象徴教授法（1）－P.ビールの論究を手がかりにして 11. 聖餐式における<パン>の象徴教授法（2） 12. 聖餐式における<水>の象徴教授法（1） 13. 聖餐式における<水>の象徴教授法（2） 14. 現代の堅信礼教育の実践－ドイツ教会の場合 15. 現代の堅信礼教育と若者の生活圏 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>次の講義または学生発表のテーマや箇所について、他の受講者も事前に関連諸資料の該当箇所をよく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>授業の前半は講義中心に進めるが、学生発表も含めて、関連する資料・参考書をその都度指示し、あるいはプリント配布する。</p>	
<p><参考書></p> <p>Peter Biehl, Symbol geben zu lernen II, um Beispiel: Brot, Wasser und Kreuz, Beiträge zur Symbol- und Sakramentendidaktik, Neukirchen-Vluyn, 1993;</p> <p>Gordon S. Mikoski, Baptism and Christian Identity, Teaching in the Triune Name, Grand Rapids, Michigan, Cambridge, 2009.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業数の2/3以上の出席を前提として、各自の発表と毎回の授業参加度を評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
実践神学演習 a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件> 学期ごとの履修も可
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>前期は説教を取り上げ、神の言葉の神学以降のさまざまな説教論への理解を深め、日本の教会のための説教論構築への道を探る。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>毎回一つの説教論を取り上げ、テキストがあるものについては割り当てられた者が要約、コメントを行い、批判的に検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 E. トゥルナイゼン「説教の課題」(『神の言葉の神学の説教』日本基督教団出版局)</p> <p>第3回 K. バルト「説教」(同上)</p> <p>第4回 D. ボンヘッフアー「フィンケンヴァルデ説教」(『説教と牧会』新教出版社)</p> <p>第5回 H. J. イーヴァント『説教講義』(新教出版社)</p> <p>第6回 W. リュティ「説教」(『説教・告解・聖餐』新教出版社)</p> <p>第7回 H. ティーリケ「教会についての苦悩」(『教会の苦悩』ヨルダン社)</p> <p>第8回 R. ボーレン『説教』(日本基督教団出版局)</p> <p>第9回 Chr. メラー「牧会的に説教する」(『慰めの共同体・教会』教文館)</p> <p>第10回 E. ランゲ「キリスト教的な語りの課題」</p> <p>第11回 H. シュヴィア「神について語る、人間に語りかける」</p> <p>第12回 M. ニコル「お互いをイメージの中に置く」</p> <p>第13回 M. ヨズッティス「神の現臨の中に導く」</p> <p>第14回 G. M. マルティン「開かれた芸術作品を創り出す」</p> <p>第15回 D. プリュス「テキストを演出する」</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>授業担当者がコピーを配布する。</p>	
<p><参考書></p> <p>「授業計画」の中に示した諸文献。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>発表、討論への参加によって評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
実践神学演習 b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 学期ごとの履修も可
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>後期は牧会学を取り上げ、E. トゥルナイゼン『牧会学 I』をテキストとして、牧会学の基礎を身につけつつ、実践神学的思考について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>毎回1章ずつ割り当てられた者が要約とコメントをし、その上で、日本の教会での牧会と関連づけながら討論する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション、第1章 神学および教会の問題としての牧会</p> <p>第2回 第2章 教会訓練としての牧会</p> <p>第3回 第3章 牧会の対象である人間の魂</p> <p>第4回 第4章 牧会における人間理解をめぐる戦い</p> <p>第5回 第5章 対話としての牧会</p> <p>第6回 第6章 牧会的な対話の形態</p> <p>第7回 第7章 牧会的な対話における断絶</p> <p>第8回 第8章 牧会的な対話の内容</p> <p>第9回 第9章 罪の赦しについての、人間に対する呼びかけの可能性</p> <p>第10回 第10章 牧会と心理学</p> <p>第11回 第11章 牧会と精神治療法</p> <p>第12回 第12章 牧会における福音と律法</p> <p>第13回 第13章 牧会における福音主義的な悔い改め、および、第16章 牧会者</p> <p>第14回 第14章 ざんげとしての牧会</p> <p>第15回 第15章 悪魔の克服としての牧会</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>E. トゥルナイゼン『牧会学 I』日本基督教団出版局（オンデマンド）</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>発表、討論への参加によって評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教会生活や学校生活により、自らを分析し、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 講師からの個人スーパービジョンや同僚のグループスーパーヴィジョンを受けて、実際に牧会ケアとカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。</p>	
<p><授業計画> *オリエンテーション *面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生による逐語記録ケース提出とディスカッションを行う。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト> 「エニアグラム—あなたを知る9つのタイプ」ドン・リチャード・リソ&ラス・ハドソン（角川書店、2001.）</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。</p>	

専攻間共同科目	
日本伝道論演習 a	山口 隆康
前期・2単位	<登録条件>「牧会者」として教会に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の中に位置づけられた「日本伝道論」は、説教学、礼拝学、牧会学を統合する教会実践を伝道地日本においてどのように進めるかを取り扱う。</p>	
<p><授業の概要> 日本伝道論 a の演習のテーマを「日本基督教団の教憲・教規」とする。 「教会法とは何か」「教会法と世俗法」という基礎的学習から始め、教会の担任教師（伝道師・牧師）として身につけるべき「教憲・教規の読み方」を学ぶ。また、現在の日本基督教団と所属各個教会の直面している諸問題を教会法の観点から考察を加えていく。</p>	
<p><履修条件> なし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：牧会学と教会法 第2回：教会法と世俗法 第3回：福音主義教会における教会法をめぐる諸課題 第4回：日本基督教団法制史 その1 日本基督教団の成立と教会規則 第5回：日本基督教団法制史 その2 宗教団体法と日本基督教団規則 第6回：日本基督教団法制史 その3 「宗教団体である教団」と「教会である教団」の問題 第7回：日本基督教団における「教憲・教規」の制定 第8回：「信仰告白・教憲」と「日本基督教団のかたち」 第9回：「日本基督教団教憲」の特徴 第10回：「日本基督教団信仰告白」と「日本基督教団教憲」 第11回：「日本基督教団教憲」と「会議制」 第12回：「日本基督教団教憲」における全体教会と個教会 第13回：「日本基督教団教憲」における個教会と「教区問題」 第14回：「日本基督教団教憲」における教職制度 第15回：教団所属各個教会の規則の問題</p>	
<p><準備学習等の指示> 『日本基督教団教憲・教規および諸規則』を手元におき、すぐに参照できるようにしておくこと。</p>	
<p><テキスト> 演習において配布する。</p>	
<p><参考書> 演習において紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則としてレポートによる。</p>	

専攻間共同科目	
日本伝道論演習 b	山口 隆康
後期・2単位	<登録条件>「牧会者」として教会に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の中に位置づけられた「日本伝道論」は、説教学、礼拝学、牧会学を統合する教会実践を取り扱う。とくに伝道地日本において教会をどのように建設するかという課題を取り扱う。</p>	
<p><授業の概要> 本年の日本伝道論 b の演習のテーマを「日本基督教団教憲・教規」の解釈とする。 「日本基督教団教憲・教規」の解釈の中で、とくに「牧会のための戒規」、「教職論と招聘制度」「教規と式文」に焦点を合わせ、演習をすすめる。</p>	
<p><履修条件> なし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：「牧会と聖餐礼典と戒規」の問題 第2回：「日本基督教団教憲」における会議制と「法の支配」 第3回：「日本基督教団教憲」における教職と信徒 第4回：「日本基督教団教憲・教規」における招聘制度 第5回：「日本基督教団教規」における招聘とその手続き その1 教会法と召命 第6回：「日本基督教団教規」における招聘とその手続き その2 教職の招聘と教会会議 第7回：「日本基督教団教規」における招聘とその手続き その3 教会総会と教会役員会 第8回：教会法と伝道 教職観と招聘制度 第9回：教会法と伝道 教憲・教規の解釈の視点から 第10回：教会法と伝道 会議制と教会形成 第11回：教会法と伝道 教会会議としての個教会の会議 第12回：教会法と伝道 牧師の辞任・解任・隠退をめぐる諸問題 第13回：教会法と伝道 教会規則と式文、葬儀 第14回：教会法と伝道 教会規則と式文、結婚・離婚 第15回：教会法と伝道についてのまとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 『日本基督教団教憲・教規および諸規則』を参照できるようにしておくこと。</p>	
<p><テキスト> 演習において必要に応じて配布する。</p>	
<p><参考書> 演習において必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則としてレポートによる。</p>	

専攻間共同科目	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>キリスト教は学問理論として研究・考察され得るが、何よりも歴史の中に働く神の啓示たるイエス・キリストの福音の力として、実践的行為において存続する。それは、キリスト共同体形成と福音伝道の形をとる。この福音伝道を理論的、歴史的に考察し、それを特にアジア的文脈において行うことを目指す。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>今回は、アジア諸国のキリスト教宗教一般を扱わず、一国を選び、その国の歴史と文化におけるキリスト教受容のプロセスを考察していく。日本と中国の間に位置する韓国のキリスト教を共に学んでいく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： アジアにおけるキリスト教—文化的、伝道論的視点から</p> <p>第2回： 初期におけるキリスト教との接触</p> <p>第3回： ネストリウス派キリスト教（景教）の足跡</p> <p>第4回： 韓国におけるローマ・カトリックの宣教</p> <p>第5回： プロテスタント宣教と韓国人</p> <p>第6回： プロテスタント宣教の始まり</p> <p>第7回： 近代啓蒙運動とキリスト教伝道</p> <p>第8回： 教会設立と民族運動</p> <p>第9回： 十字架の下なる教会</p> <p>第10回： 分派活動とエキュメニカル運動</p> <p>第11回： 宗教と神社問題</p> <p>第12回： 第二次世界大戦後の推移—教会再建と分裂</p> <p>第13回： 1960 代までの宗教状況</p> <p>第14回： 1960 年代後半から今日まで</p> <p>第15回： 今後の展望</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義もするが、受講者はできるだけ一度はテーマに従って発表していただく。次週授業で扱うテキスト箇所は皆が事前に読んで予備知識をもち、議論に参加できるよう心がけること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>土肥昭夫、他 共著、『アジア・キリスト教史』[1]、教文館</p>	
<p><参考書></p> <p>日本基督教団出版局編、『アジア・キリスト教の歴史』、1991 年</p> <p>関庚培（金忠一訳）、『韓国キリスト教会史』、新教出版社、1981 年</p> <p>H.G. アンダーウッド（韓哲儀訳、『朝鮮の呼び声』、未来社、1976 年</p> <p>柳東植（澤、金 共訳）、『韓国キリスト教 神学思想史』、教文館、1986 年</p> <p>澤正彦、『未完 朝鮮キリスト教史』、日本基督教団出版局、1991 年、その他</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業の中で行う発表、意見・質問等の参加度、および最後授業までに提出すべきレポートによって、総合的に評価する。出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専攻間共同科目	
アジア伝道論演習 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>なるべく通年で履修する。
<p><授業の到達目標及びテーマ> アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 特になし。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序説1－伝道(宣教)学とは何か－ 2. 序説2－アジア・キリスト教伝道論－ 3. 序説3－キリスト論的三位一論における諸宗教との対話－ 4. 序説3－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判 (以下、テキストに従って、5～14まで学生発表と講義) 5. 議論の背景 6. 権威の問題 7. 三位一体の神の宣教 8. 御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－ 9. 御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－ 10. 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－ 11. 福音と世界の歴史 12. 神の正義のための行動としての説教 13. 教会成長、改宗、文化 14. 諸宗教の中の福音 15. アジア伝道の反省と展望(講義) 	
<p><準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト> レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010年。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -, 『神学』72号、東京神学大学神学会、2010年、教文館、143～166頁 	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業の中で行う発表、意見・質問等の参加度、および最後授業までに提出すべきレポートによって、総合的に評価する。出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習 I	朴 憲郁 山口 隆康
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>「説教学とは何か」から始め、説教学の基本を学び、説教作成の方法を身につけ、説教の自己評価、自己改善ができるようにする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>まず「説教学とは何か」を学び、説教者のための神学の諸課題を学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 現代説教学入門・・・「宗教的語り」としての説教・・・</p> <p>第2回 説教の準備をめぐる諸課題</p> <p>第3回 説教学の歴史</p> <p>第4回 現代説教学の課題 「説教の定義」の問題</p> <p>第5回 現代説教学の課題 「言語喪失状況（ボーレン）」と「失語症の研究（ヤーコブソン）」</p> <p>第6回 現代説教学の課題 説教学と修辞学</p> <p>第7回 現代説教学の課題 言語論とくに「言語論的回転」をめぐる諸問題</p> <p>第8回 現代説教学における「説教者論」</p> <p>第9回 現代説教学の課題 説教と「コノテーションの問題」</p> <p>第10回 現代説教学における「聴衆論」</p> <p>第11回 現代説教学の課題 説教における「引用」について</p> <p>第12回 現代説教学の課題 説教における「主題」について</p> <p>第13回 説教学と黙想論（1） 「黙想とは何か」</p> <p>第14回 説教学と黙想論（2） 「説教黙想とは何か」</p> <p>第15回 説教学と黙想論（3） 「黙想の実例を読む」</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>聖書全巻を通読しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>クラスにおいてその都度指示する。</p>	
<p><参考書></p> <p>テーマごとにクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。遅れて提出することは認められないので、その都度必ず提出すること。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅱ	朴 憲郁 山口 隆康
後期・2単位	<登録条件> 説教学演習Ⅰを履修済み(予定)
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>説教学の基本を学び、説教学的に検討された説教作成に関する諸問題と説教分析論を理解し、身につける。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>現代説教学の諸課題について説教の作成において学ぶ。また実際になされた説教の分析を通して説教を改善する方法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 説教準備をめぐる諸課題 第2回 説教の導入をめぐる諸問題 第3回 説教と文体 第4回 説教作成と文体練習 第5回 説教作成と説教黙想 説教黙想を読む その1 第6回 説教作成と説教黙想 説教黙想を読む その2 第7回 説教黙想の作成、と黙想の批評 その1 第8回 説教黙想の作成、と黙想の批評 その2 第9回 説教の演述と諸問題 第10回 説教の批評 印象批評の問題 第11回 説教分析論 その1 第12回 説教分析論 その2 第13回 説教学と解釈学 第14回 「分析素」をめぐる諸問題 第15回 説教分析論と説教作成理論</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>聖書全巻の通読を続けること。配布される論文、黙想を十分読んで準備すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>論文、黙想などを教室で配布する。</p>	
<p><参考書></p> <p>R. ボーレン 『説教学Ⅰ、Ⅱ』 日本基督教団出版局</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>発表と授業への参加度、レポートによって評価する。説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。遅れて提出することは認められないので、その都度必ず提出すること。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅲ	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>修士論文を提出し、卒業に備えている者
<p><授業の到達目標及びテーマ> テキストの釈義から黙想を経て説教を準備し、実際に説教するに至るまでの過程を体験することにより、説教者として立つための基本的な訓練を行う。</p>	
<p><授業の概要> 担当者を決め、指定された聖書テキストに従って説教を準備し、説教してもらう。また説教批評を共有することで、説教者としての自己吟味の能力をも養う。</p>	
<p><履修条件> 修士論文を提出し、受理されて、博士課程前期課程修了見込みである者。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 説教とは何かを考えながら、テキストの釈義、黙想、構成について考察する。</p> <p>第2回 マタイによる福音書 6：25－34</p> <p>第3回 マルコによる福音書 5：1－20</p> <p>第4回 ルカによる福音書 12：13－21</p> <p>第5回 ヨハネによる福音書 9：1－12</p> <p>第6回 ローマの信徒への手紙 8：18－25</p> <p>第7回 コリントの信徒への手紙二 6：1－10</p> <p>第8回 ガラテヤの信徒への手紙 5：13－15</p> <p>第9回 テモテへの手紙一 1：12－17</p> <p>第10回 創世記 12：1－4</p> <p>第11回 申命記 26：5－11</p> <p>第12回 詩編 19：1－7</p> <p>第13回 イザヤ書 43：1－7</p> <p>第14回 エレミヤ書 31：18－20</p> <p>第15回 総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 担当箇所を準備を入念にすること。また他の人の説教を聞いて、適切な批評をし、共に学び合うこと。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書</p>	
<p><参考書> 該当箇所の注解書、黙想集、説教集</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 説教の内容と語り方全体が問われる。またコメンテーターとしての説教批評も重視される。最後にレポートを提出してもらう。</p>	

実践神学研修課程	
礼拝学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2016年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業の到達目標及びテーマ> 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。	
<授業の概要> 主日礼拝を初めとして、その他の諸礼拝、結婚式、葬儀などの祈りの形式について、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 礼拝学的思考の特質について 第2回 聖書、古代、中世の礼拝 第3回 宗教改革における礼拝改革 第4回 近代・現代の礼拝 第5回 典礼の刷新、東方教会の奉神礼 第6回 礼拝式と祈祷 第7回 礼拝式文の位置と使い方 第8回 賛美、礼拝音楽 第9回 洗礼式 第10回 聖餐礼典 第11回 結婚式 第12回 葬儀 第13回 礼拝堂 第14回 教会暦と聖書日課 第15回 教会学校の礼拝</p>	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<参考書> 由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011年 W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館、1998年（オンデマンド） その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

実践神学研修課程	
牧会学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2016年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業の到達目標及びテーマ> 実践神学を牧師学としてとらえ、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。	
<授業の概要> 牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取り上げ、参加者の発表を通して必要な知識と方法を身につける。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 牧師学としての実践神学 第2回 召命と准允、按手 第3回 「牧師職」、赴任と離任 第4回 招聘制度と牧会 第5回 結婚と離婚 第6回 キリスト者の家庭と信仰の継承 第7回 病者の牧会 第8回 葬儀とその周辺 第9回 告解・面談・訪問 第10回 洗礼への導きと受洗準備、受洗後教育 第11回 聖餐と牧会 第12回 教会戒規 第13回 教会会議（教会総会、役員会）と議長職 第14回 牧会と教会法 第15回 全体教会と個教会、教会の制度</p>	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<p><参考書></p> <p>E. トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』日本基督教団出版局、1961、1970年（オンデマンド） ウィリアム・ウィリモン『牧師』新教出版社、2007年 その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。</p>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

実践神学研修課程	
総合特別講義	朴 憲郁
後期・4単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2016年4月に教会・学校に赴任する意志の明確な者
<授業の到達目標及びテーマ> 福音主義教会が現在直面している問題、課題に適切に対応していくために必要な学びである。	
<授業の概要> その分野の専門家が、テーマごとの講義を行うオムニバス形式の総合講義である。	
<履修条件> 原則として全回出席できる者	
<授業計画> 第1回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝前史 第2回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝合同神学校以後 第3回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争前） 第4回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争後） 第5回：山口隆康講師「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団成立以前 第6回：山口隆康講師「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団成立以後 第7回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」教団史と紛争史の視点 第8回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」「教団紛争」とは何であったか？ 第9回：大住雄一教授「日本基督教団教憲・教規」 第10回：大住雄一教授「各教会規則・宗教法人規則」 第11回：栗林輝夫講師「部落解放とキリスト教」 第12回：栗林輝夫講師「部落解放とキリスト教」 第13回：小島誠志講師「地方伝道」 第14回：小島誠志講師「地方伝道」 第15回：岩田昌路講師「青年伝道」 第16回：岩田昌路講師「青年伝道」 第17回：本間義信講師「刑務所伝道」 第18回：本間義信講師「刑務所伝道」 第19回：春原禎光講師「ITと伝道」 第20回：春原禎光講師「ITと伝道」 第21回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第22回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第23回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第24回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第25回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第26回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第27回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第28回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第29回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第30回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第31回：棚村重行教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第32回：棚村重行教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第33回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第34回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第35回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」 第36回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」 ※講師は予定。当該年度に決定する。	
<準備学習等の指示> 日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」に目を通しておくこと。	
<テキスト> 「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」	
<参考書> 担当教授、講師が講義の中で紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> レポートによって評価する。	